



平成29年2月14日

各位

会社名 児玉化学工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 豊島 哲郎
 (コード：4222、東証第2部)
 問合せ先 取締役管理本部長 斉木 均
 (TEL. 03-3279-4900)

業績予想の修正及び特別損益の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年11月14日に公表した連結業績予想の修正及び特別損益の計上についてお知らせいたします。

1. 業績予想の修正について

(1)平成29年3月期通期連結業績予想の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,000	400	200	100	0.43
今回実績値 (B)	21,500	△50	△250	0	0.00
増減額 (B-A)	△2,500	△450	△450	△100	
増減率 (%)	△10.4	—	—	—	
(参考)前期実績 (平成28年3月期)	22,383	△12	△511	△710	△24.11

(2)修正の理由

連結業績予想につきましては、国内に於いては概ね順調に推移しましたが、海外ではアセアン地域において、年度後半にかけて経済状況が少しずつ回復してくると見込んでおりましたが、予想以上に需要の低迷が長引いており、タイにおける国王の逝去(2016年10月)に伴う経済の停滞もあり、それに為替の影響(円高)が加わり、売上高が減少致しました。

また、インドネシアの子会社につきましては、今期に入り売上高が急増致しましたが、その立上げの混乱に伴う費用の増加と人員の急増や人件費の高騰により利益が低迷致しました。

以上の主としてアセアンの自動車部品分野の要因により、前回業績予想を下回る見通しです。

尚、インドネシア子会社は、第4四半期(2016年12月)に一部株式を譲渡し連結子会社から持分法適用会社に変更しましたが、今期の通期の業績については連結子会社としてその赤字を経常利益まで反映し、変更による持分変動利益を特別利益として反映させております。

2. 特別損益計上

(1)第4四半期において、インドネシアの連結子会社株式の一部譲渡等による持分変動利益を特別利益として、3億1千万円計上見込みであります。

(2)中国の連結子会社において、第4四半期に事業構造改革等の費用を特別損失として、6千万円計上見込みであります。

※本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上